

# ビジネスパーソン調査レポート 2017

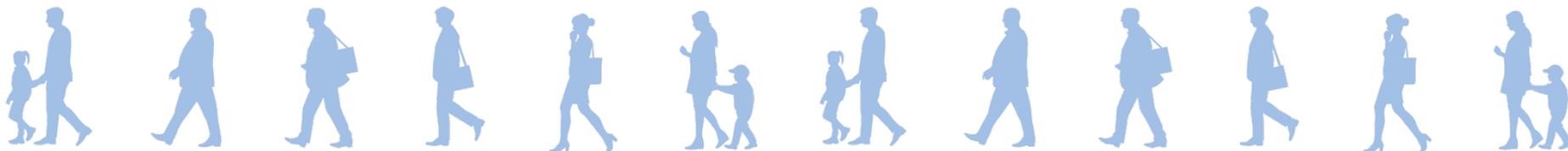
## ～ ビジネスへの意識・態度篇 ～

ビジネスパーソンが持つ、自己イメージ、働く環境についての意識や  
ストレス状況、ストレスに対する対処法など、ビジネスパーソンの「今」に迫ります

2017.9

# 調査概要

ジェイアール東海エージェンシーでは、ビジネスパーソンを対象にしたWebアンケート調査を定期的を実施しています。「ビジネスパーソン」を総務省「労働力調査」の定義する『就業者』から「パート・アルバイト」を除いた職業につく、20～60代の男女（全国）と定義し、役職や年収といった属性項目だけでなく、働く意識や消費性向、メディア接触など、さまざまなデータを収集しています。



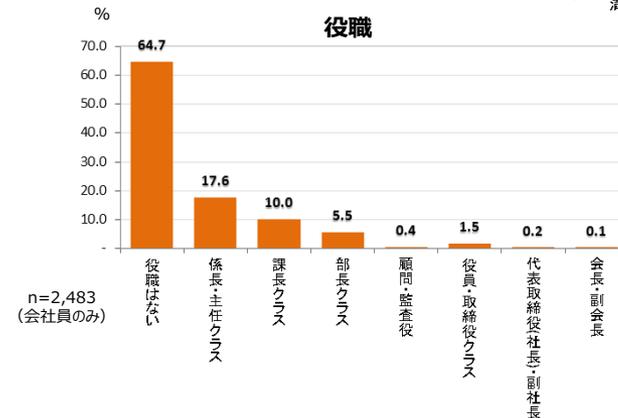
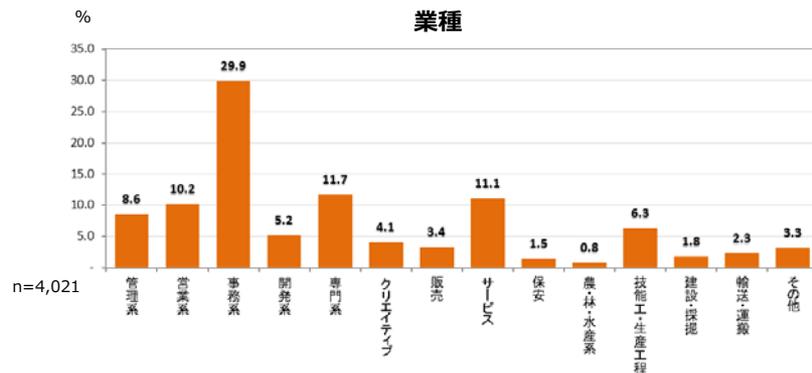
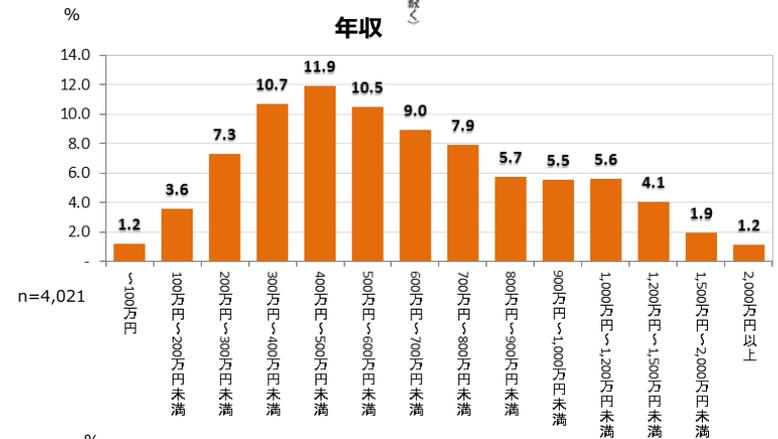
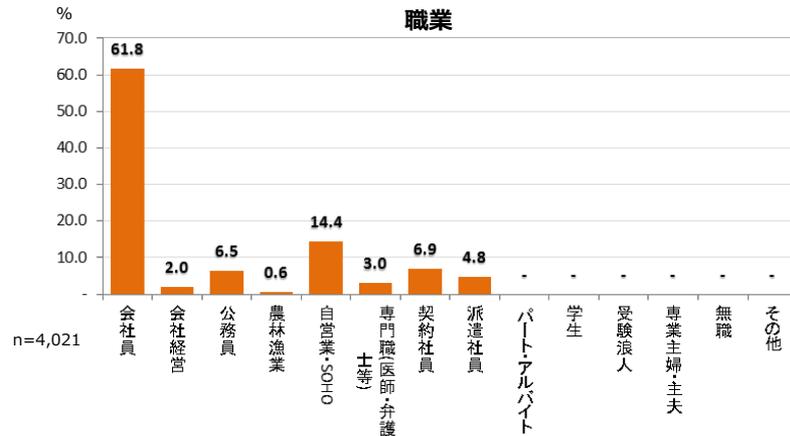
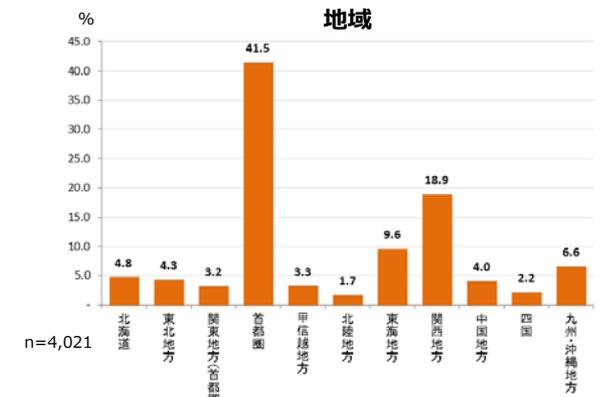
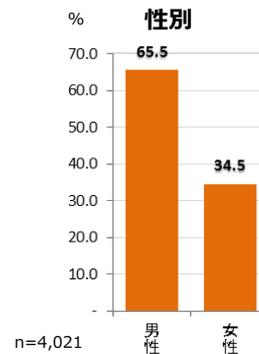
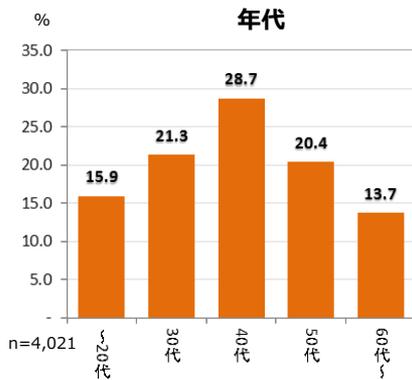
## ビジネスパーソン調査 2017 調査概要

調査手法	インターネット調査
対象者条件	【性別】 男女 【年齢】 20代～60代 【地域】 全国
サンプル数	インターネット：4,021サンプル
調査期間	2017年3月9日(木) ～ 3月14日(火)
調査協力会社	株式会社コプロシステム

●本調査での回収結果：ビジネスパーソン(=就業者-パート・アルバイト従事者)

合計	男性計						女性計					
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代		
4,021	2,635	362	528	767	571	407	1,386	277	329	387	248	145
100.0%	65.5%	9.0%	13.1%	19.1%	14.2%	10.1%	34.5%	6.9%	8.2%	9.6%	6.2%	3.6%

# デモグラフィック属性 2017年調査データ



# 人から持たれたい印象

**【年代別】年代が上がるほど持たれたいと思う印象が多くなる傾向。特に60代は「責任感の強い」「信頼できる」「誠実な」などについては当てはまると答えた割合が他の年代に比べて高い。**

Q.あなたは、人からどのような印象を持たれたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。【MA】

60代以上は、上位10項目においてほとんどすべての項目で他の年代を上回る結果となった。

特に「責任感の強い」「信頼できる」「誠実な」は他の年代との差が5ポイント以上と大きい。

また、50代も「責任感の強い」「信頼できる」については35%以上の人が当てはまると答えた。

20代のポイントが他の世代よりも高かったのは「優しい」だったが、他の年代と大きく差がついたわけではなくほぼ横並び。



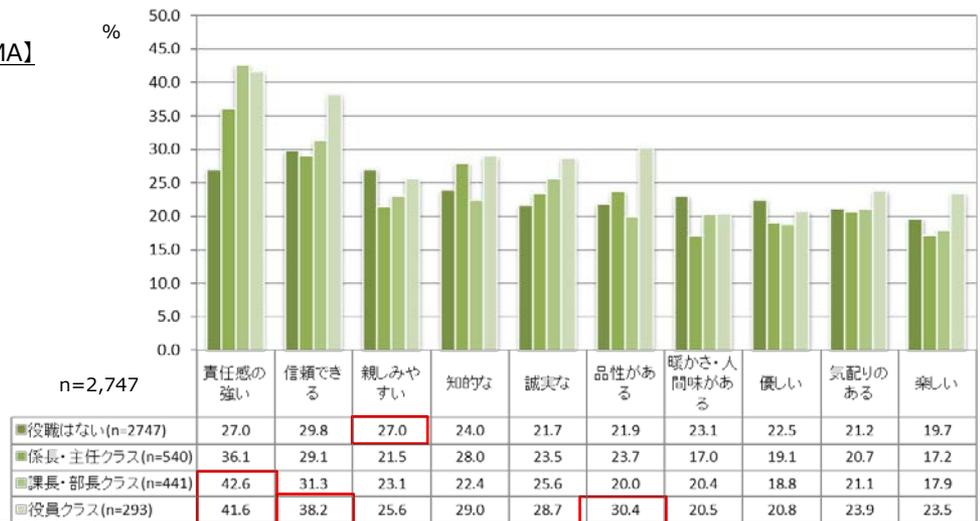
**【役職別】課長・部長クラスは「責任感の強い」が他の役職を抑えてトップに。役職がないと答えた人は「信頼できる」「親しみやすい」を重視。**

Q.あなたは、人からどのような印象を持たれたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。【MA】

役員クラスは、上位10項目においてほとんどすべての項目で当てはまると答えた人の割合が多い結果となった。もっとも高いのは「責任感の強い」、次いで「信頼できる」「品性がある」と続く。

課長・部長クラスでは、「責任感の強い」「信頼できる」に次いで「誠実な」、係長・主任クラスでは「責任感の強い」「信頼できる」に次いで「知的な」という結果となり、役職によってばらつきが出る。

役職がない、と答えた人が最も重視するのは「信頼できる」次いで「親しみやすい」「責任感の強い」。特に「親しみやすい」については他の役職を抑えて最もポイントが高かった。



# 仕事環境・働き方への意識

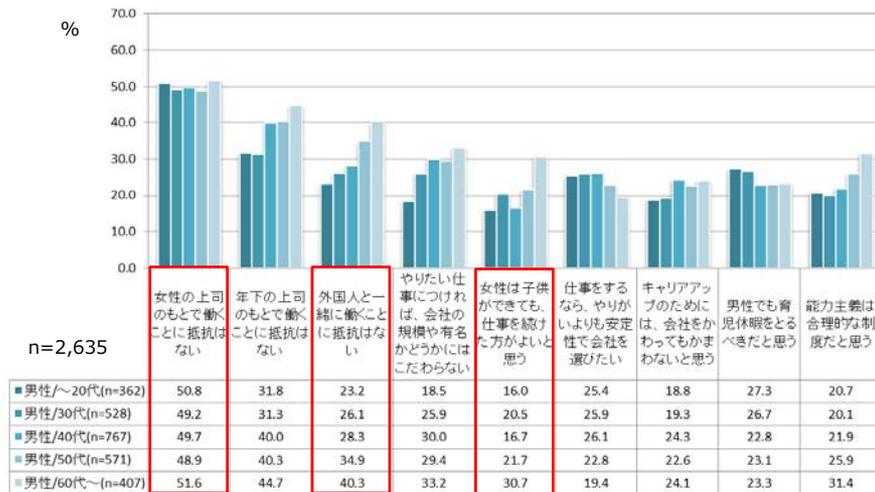
**【男性年代別】年代を問わず「女性の上司のもとで働くことに抵抗はない」が、「外国人と一緒に働くことに抵抗はない」と答えた人は年代が下がるほどポイントが低くなる結果に。「女性は子供ができて、仕事を続けた方がよいと思う」と答えた60代は30%超でもっとも高い。**

Q.以下に挙げた項目について、あなたご自身にあてはまるものをお選びください。【MA】

男性がどの年代でも最も多くポイントあげたのは「女性の上司のもとで働くことに抵抗はない」で、まだまだ日本は男性中心の社会であるという見方もあるなか、女性の管理職・役員への心理的な抵抗は和らいできていると考えられる。

反して「外国人と一緒に働くことに抵抗はない」については、若い世代ほど低いポイントになるという結果となり、若い世代の方が抵抗が強いことが分かった。

また「女性は子供ができて、仕事を続けた方がよいと思う」については全世代で20ポイント程度になっているが、60代以上だけは30ポイントを超えるなど、より柔軟に捕らえている傾向がうかがえる。

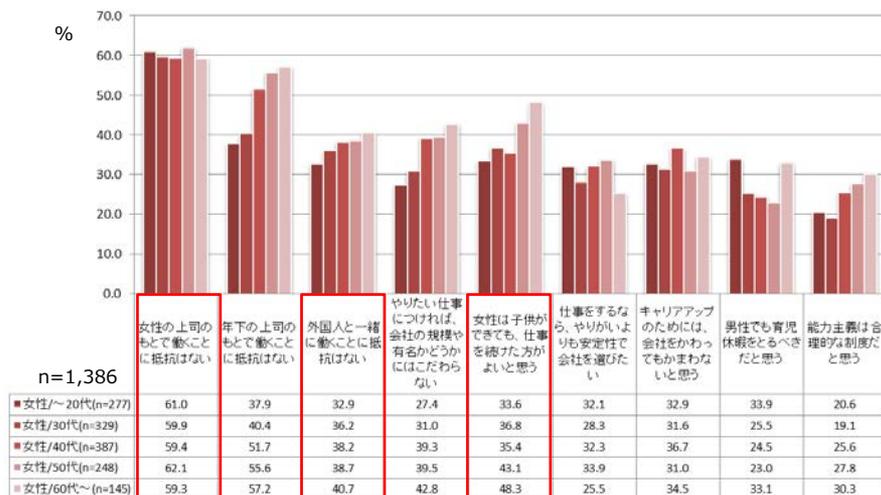


**【女性年代別】「外国人と一緒に働くことに抵抗はない」と答えた人は、男性に比べてどの年代もポイントが高く、年代差も少ない結果となった。また、「女性は子供ができて、仕事を続けた方がよいと思う」については50代・60代で高い。**

Q.以下に挙げた項目について、あなたご自身にあてはまるものをお選びください。【MA】

「女性の上司のもとで働くことに抵抗はない」は全年代で60ポイント近くとなり、男性よりも10ポイントほど高い。また、「外国人と一緒に働くことに抵抗はない」についても、年代で多少のばらつきはあるものの30ポイント以上となり、人材の多様性に対する寛容度は女性の方が全体的に高いと言える。

「女性は子供ができて、仕事を続けた方がよいと思う」については60代で48.3%と半数近くに達しており、これはビジネスパーソンとして60代まで仕事を続けてきた女性だからこそこの意見であるという見方もできる。



# 仕事に対する意識

**【年代別】「有給休暇は当然の権利だと思う」に年代差はないが「仕事よりもプライベートが優先」は若い世代が多く、「仕事とプライベートはどちらも大切」は年代が上がるほどポイントが高い結果となった。60代は「基本的に仕事が好きな方である」と答えた人が36%でもっとも高い。**

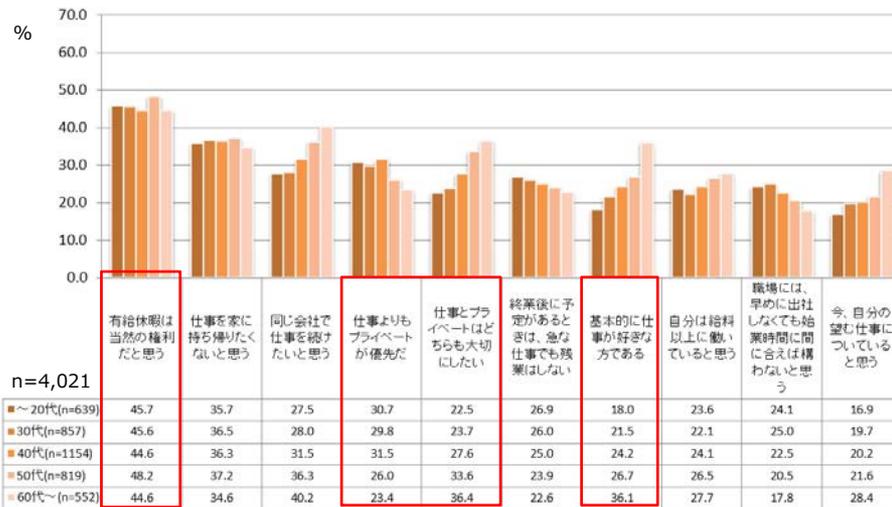
Q.以下に挙げた項目について、あなたご自身にあてはまるものをお選びください。【MA】

「有給休暇は当然の権利だと思う」については全年代で40%を超え、年代間であまり差異はない。

「仕事よりもプライベートが優先だ」は20代～40代がやや50代・60代よりもポイントが高く「仕事とプライベートはどちらも大切にしたい」と答えた割合は50代・60代が他の年代よりも高かった。

仕事<プライベートではなく、どちらも両立したいのが50代・60代、仕事よりもプライベートを大事にしたいのが若い年代と、やや年代によるギャップを感じる。

また、60代は「基本的に仕事が好きな方である」と答えた人の割合も高い。



**【役職別】 役員クラスでは「有給休暇は当然の権利だと思う」と答えた人が顕著に低い。また「仕事よりもプライベートが優先だ」と答えた人も15%と低い。対して「仕事とプライベートはどちらも大切にしたい」と答えた人はもっとも高い。**

Q.以下に挙げた項目について、あなたご自身にあてはまるものをお選びください。【MA】

役員クラスでは、「有給休暇は当然の権利だと思う」と答えた人が30%以下となり、役職なし、または係長～部長クラスの層よりも10ポイント以上低い。

また、「仕事よりもプライベートが優先だ」と答える人は15%にとどまる一方、「仕事とプライベートはどちらも大切にしたい」と答えた人が36.9%と他の役職と比べてもっとも高い結果となった。

年代別の結果とは異なり、「基本的に仕事が好きな方である」と答えた人は役職ごとの差は少ない結果となった。



# ストレス状況・ストレス解消法

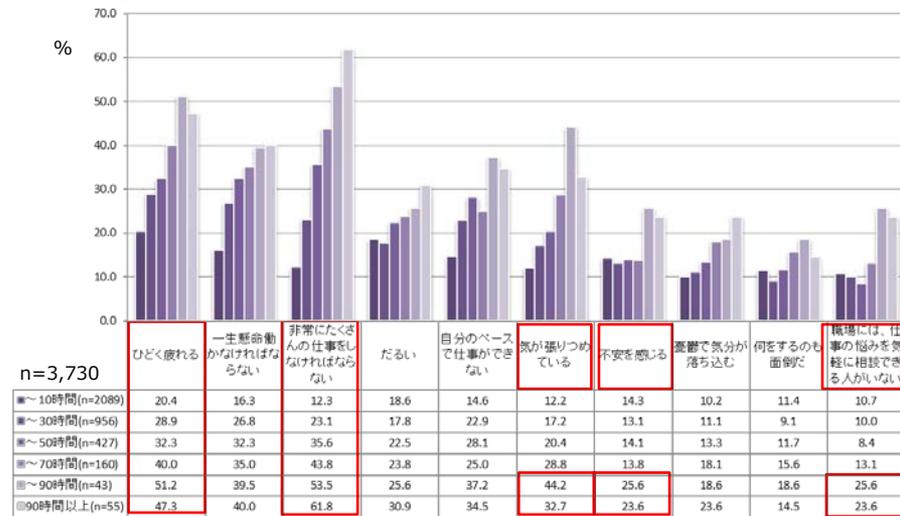
**【残業時間別】 全体的に、残業時間が多くなるに従ってさまざまなストレスを強く感じる傾向。全体で最も多かったのは「ひどく疲れる」だが、残業時間が70時間以上の層では「気が張りつめている」「不安を感じる」と答える人の割合も多い。**

Q.ここ1ヶ月の仕事やあなたの状態について、あてはまるものを教えてください。【MA】

全体的な傾向として、残業時間が多くなるに従ってさまざまなストレスを強く感じていることがわかる。全体で最も多かったのは「ひどく疲れる」で、これは残業時間が10時間未満の人でも20.4%と、全体の1/5の人が仕事による疲れを感じていた。

残業時間が70時間以上の人では50%近くの人が「ひどく疲れる」と回答していたが、残業時間が多くなるに従って「非常にたくさんの仕事をしなければならない」とも感じている。また、「気が張りつめている」「不安を感じる」と答えた人も多かった。

特に70時間以上の層では「職場には、仕事の悩みを気軽に相談できる人がいない」と答える人も20%超いて、誰にも相談できない状況にあるために、仕事状況の改善が図りにくい人も一定数いるのではないかと。



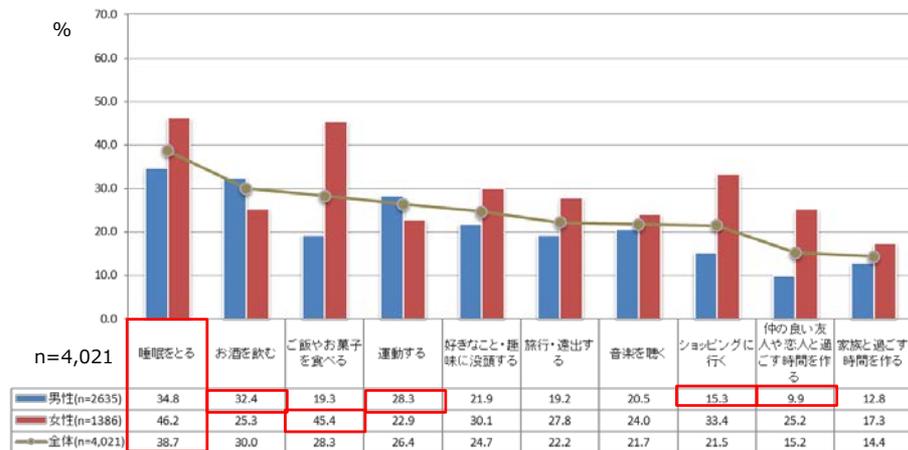
**【男女別】 男性は「睡眠をとる」「お酒を飲む」と答えた人が30%超。女性は「睡眠をとる」「ごはんやお菓子を食べる」が40%超、「ショッピングに行く」が30%超など、男性と比べてなんらかのストレス解消法を確立している人が多い印象。**

Q.あなたはストレスが溜まったと感じるとき、どんな方法でストレスを発散・解消しますか。【MA】

ストレスを発散・解消する方法を見ると、全体で最も多かったのは「睡眠をとる」だった。

男女別に見ると、男性の方が女性よりもポイントが高かったのは「お酒を飲む」「運動する」だが、「ごはんやお菓子を食べる」「ショッピングに行く」「仲の良い友人や恋人と過ごす時間を作る」では女性の方が男性を大きく上回った。

全体的に女性の方がポイントが高い項目が多く、積極的にストレスを発散・解消する方法をたくさん持つ傾向があるのではないかと考えられる。また、男性の方は一人で解消できるストレス解消法が多い傾向があるように感じる。



# まとめ

日本のビジネスパーソンは、多様性に徐々に対応し、柔軟な働き方を受け入れるようになってきているように感じられるものの、世代や役職でまだまだ隔たりが大きい項目もあります。ですが、おそらく日本でも人材のグローバル化が進み、今後もゆるやかに性別や人種、またそれぞれの働き方への意識の違いなど、多様性を受け入れる方向へ変化していくのではないかと考えられます。

また、昨今社会問題となっている長時間労働については、やはり長く働くことによって多くのストレスを感じている人が多い結果となりました。特に長時間働いている人には、「相談ができない」「不安を感じる」「気が張りつめている」など、心身への影響の多大さを感じます。

ストレスと長時間労働による人材損失を防ぐため、まずは働き方の多様性を受け入れ、適切なワークライフバランスを維持できる制度をつくっていくことが、ビジネスパーソン全体の意識の変容を促し、ひいては働きやすい社会を作ることにつながっていくのではないのでしょうか。

## このレポートへのお問合せ先

(株)ジェイアール東海エージェンシー コミュニケーションデザイン部

担当：近間、大橋

Mail) a-chikama@jrta.co.jp

TEL) 03-6688-5009